

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員は毎日意識付けするために、施設理念を唱和し、地域密着型サービス提供の実践に努めている。異動者・入職者には随時説明を行っている。	グループホーム開設時に事業所独自の理念を作成し、玄関、事務所に掲示し、毎朝のミーティング時に確認しています。また、職員も年間個人目標を設定し、理念を実践できるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本来なら地域との付き合いをしているが、今年度は新型コロナの感染予防の点から地域との付き合いができていない。今後の課題である。	町内の回覧板にて事業所広報を回覧し、地域にも事業所での活動の情報を発信しています。また、今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年ではご利用者と一緒に町内の納涼祭に参加したり、保育園児との交流の機会を設けたりと、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本来なら施設での実践内容を踏まえて地域の研修会の参加や実習の受け入れ、施設見学等を行っているが、今年度は新型コロナの影響で行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナの感染予防の点から、運営推進会議は書面(事業報告・経過報告等)での開催になっている。議事内容を送付し、意見をいただいた上で所長が返答する形にしている。その意見は施設会議で職員に周知している。	今年度は新型コロナウイルスの影響で書面送付としていますが、運営推進会議は2ヶ月に1回、町内会長、ご家族、市役所担当職員、地域包括支援センター職員からご意見を頂いています。委員へ事業所の状況報告を行い、頂いたご意見はしっかり受け止めて、サービスの向上に繋げるようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度、運営推進会議に市役所担当職員が参加されている。書面でのやりとりであるが、連携を図りながら、協力関係を築くことができている。	市役所担当職員、地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、定期的に状況報告を行い、アドバイスも頂くなどし、連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には施設内研修会を通して、身体拘束について学んでもらった。また、施設会議の議事内容の一つとして挙げ、職員間で情報共有を図っている。そして、適宜、運営推進会議時に身体拘束について現状の報告や対策について報告している。	身体拘束を行わない方針のもと玄関の施錠も夜間のみとしているほか、身体拘束についての検討会や研修を行い周知徹底をしています。また、職員の言葉の遣い方についても指導するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は新型コロナのため、前所長のみ隣接施設の研修会に参加している。その内容を職員一人ひとりに説明し、高齢者虐待について学び、防止に努めている。	身体拘束研修と同じく、虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、日常の言葉の使い方やしぐさの部分も確認し、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については資料を揃えており、確認はいつでもできる状態にある。成年後見人が必要なケースでは管理者が対応に当たするため、他の職員の理解は不十分であるので、今後の課題にしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ケア方針・退所時の対応について説明を行っている。施設で対応が難しくなった時や入院された時は、利用者様・家族様の意向を汲み取り、連携施設等への移行等の話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議及び面会時や毎月家族様へお手紙を出しており、状態報告を行っている。そして、利用者様・家族様からご意見があれば、その都度対応を行っている。また、玄関ホールに投書箱を設置し、苦情や要望を伝えやすい環境整備を行っている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、玄関に意見箱を置くなど、ご家族からの意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議や各ユニット会議時、様々な検討を行っており、問題点の改善を図っている。会議では話せないようなことは個別面談を設け、意見の汲み取りをしている。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の全体会議・ユニット会議の場で検討が行われ、改善されています。また、所長が個人面談の機会も設けるなどし、職員の意見を汲み取れるように努めています。	調査時点で職員会議録の日付に記載ミスがありましたので、今後ミスが起きないように検討されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間休日(120日以上)に加え、基本5日以上の有給休暇の取得ができています。また、年1回、基本給や各種手当等の水準の見直しをしており、職員の意欲が高くなるような環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職した職員に対して、一定期間マンツーマンの指導を行っている。中堅職員以上の職員に対しては、定期的に研修を行う機会を設け、介護技術・知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は外部研修に参加していない。同法人の研修会には所長のみ参加しており、その研修内容を他職員に説明し、周知を図っている。また、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所とは随時情報共有をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で情報共有を行い、状態把握に努めている。また、利用者様の意向を確認して、入所・利用に当たっての不安や疑問点が解消できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係を築けるように家族様の要望、不安、疑問点等をお聞きしている。入所・利用後は密に情報共有を行い、安心して利用できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の意向を受けとめて、施設としてできることを職員間で検討し、最善の支援ができるように努めている。また、適宜、同法人施設や他事業所のサービスの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	住み慣れた環境で利用者様らしく生活できるように食事を一緒に食べたり、趣味活動と一緒にいたりしている。その中で利用者様の様々な気持ちを汲み取り、暮らしの中で支えあえる関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には毎月写真付きのお手紙、行事の写真等が載っている広報誌を季節ごとにお送りしており、近況が伝わりやすいようにしている。また、面会時、電話連絡時等で情報共有をし、協力関係を築けるようにしている。	毎月居室担当職員よりご利用者の日々の生活の様子をまとめたお手紙を送付しています。また、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるような関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は馴染みの場所には行けてない。家族様等とは窓越し面会やオンライン面会で関係が続けていけるように支援している。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、ご家族にも協力して頂き面会に来て頂いたり、外食に出かけたり、行きつけの美容院を利用したり、ご自宅に出かけたりと、今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間、行事を通して、多くの時間を共有できるように努めている。また、適宜、職員が仲介し、利用者様同士が交流できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に行かれる時、施設でのサービス内容・ケアプラン等の情報共有を行い、連携を図っている。必要に応じて、利用者・家族様から要望があれば、対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の発する言葉から思いや意向を汲み取るようにし、記録に残すことで職員間で情報共有を行っている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は毎月のカンファレンスで連絡され、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族様、担当介護支援専門員、サービス事業者からこれまでの生活について情報収集を行っている。入所後も家族様から情報収集を行ったり、本人様の会話の中から情報を得るようにしている。	センター方式を活用し、ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。6ヶ月に1度アセスメントを行い、定期的な情報の更新も行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で、業務日誌や個人記録、連絡ノート等を確認し、情報共有に努めている。個別で行う対応について、ファイルにまとめ、職員間で統一した対応ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中から、本人様、家族様の意向を確認し、ケアプランに活かすようにしている。実施状況についてはケアプランチェック表や個人記録、モニタリング表で確認している。	6ヵ月毎の短期目標を作成し、毎日実施状況を確認しています。また、月に1度はモニタリングも実施しているほか、サービス担当者会議も6ヶ月に1度、ご利用者、ご家族の意向を確認し、居室担当職員を交え行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな気づきも記録に残すようにしている。職員は出勤時に連絡ノート、日誌を必ず確認するようにし、情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に病院受診の際は家族様に対応していただいているが、緊急時等には職員が対応することもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常に地域資源の把握に努めているが、今年度は地域資源との交流は行っていない。新型コロナウイルスが落ち着いてきたら、交流ができるようにしていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様が希望する医療機関へ受診、往診をしていただいている。往診時には職員が日頃の様子を伝え、受診時は主治医に文書で情報提供を行っている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっていますが、多くの方が往診に切り替えています。受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめ医師に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日行っているバイタルチェックでの様子や状態変化を見逃さないようにし、看護師への報告を行うことで体調の異変の早期発見、対応ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院へ情報提供を行っている。入院中は定期的に担当看護師等に連絡し、情報共有を行っている。経過を踏まえ、家族様と相談しながら退院後の相談、支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、施設としてできることを説明し、利用者様、家族様との話し合いの場を設けている。話し合いの中で要望や疑問点等があった場合、適切な対応ができるように関係者と連携を図っている。	実際にホームにて看取りを行ったケースもあり、ご利用者の状態に応じて必要時には医師も交え話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、施設や医療機関とも連携し支援しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年近隣施設で行われている救命・救急講習に参加していたが、今年度は中止となっている。今後、急変時にどのような対応をすべきか職員の実践力を付けていきたい。	ご利用者の急変や事故を想定したマニュアルが整備されており、普通救命講習も職員に順番に受講してもらい、職員が適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を通して、職員の技術・知識向上に努めている。今年は消防署の立ち合いはなかったが、通報はしたので、例年とほぼ変わらない内容であった。	隣接する複合施設と連携し、夜間の火災を想定した避難訓練を行なっています。災害時を想定した非常用の食品や水の確保もされています。	調査時点で非常用食品の確認日・確認者が記載されていませんでしたので、今後記載されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活歴や環境等に考慮し、一人ひとりに合わせた声かけや対応を行うようにしている。本人様の言葉に共感し、意識した声掛けを行っている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報・ホームページへの写真の掲載や居室の入り口の名前の表示についてもすべてのご利用者に確認をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様のお好きな飲み物を提供したり、お好きな服を選んでいただき着用したりと、日常的に自己決定ができる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、本人様のペースに合わせて、個々の希望に出来る限り対応し、ゆっくりと過ごせるよう環境作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の方に来ていただき、カットや毛染めを行っている。洋服については家族様に協力していただき、本人様の好みに合わせた衣類を用意していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは出来る限り利用者様と職員と一緒にいるようにしている。季節を感じていただけるようなメニューを心がけている。	ご利用者にも出来る範囲で調理や後片付けも行ってもらっています。また、誕生日に合わせて好みのメニューを提供したり、事業所でさつまいもやカボチャも収穫するなど、ご利用者に食事を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量や水分摂取量を確認、記録し、職員間で情報共有を行っている。食事摂取量が少ない方には個別で好みの物を提供することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、介助が必要な利用者様には介助を行っている。口腔ケア用品については定期的に消毒を行い、衛生面に配慮している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握を行い、尿意が曖昧な方に対しては定期的なトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるようにしている。言葉で表現できない方に対しては本人様のサインを見逃さず、対応するようにしている。	排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。トイレもユニット毎に4箇所あり、職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤使用については、医師や看護師と連携を図りながら対応している。便秘の原因を考え、活動量や水分摂取量の増加等の改善策を検討し、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は概ね週2回行っている。入浴の順番に関しては出来る限り本人様のご希望に沿えるようにしている。	基本的に週2回の基本パターンを決めていますが、ご利用者の要望に合わせて入浴支援しています。入浴を嫌がるご利用者にも、タイミングや声かけの方法を工夫したり、ご家族にも協力をお願いするなどし、入浴を楽しんでもらえるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて、午睡や休息をしていただいている。夜間眠れない方に対しては、話を傾聴したり、行動を見守ったり、安心出来るような関わりを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用、副作用等の情報は各ユニットにファイルを置き、職員が確認できるようにしている。薬の変更時には情報共有を行い、確実な服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑、手芸、生け花、お茶等、長年の趣味や経験、特技を活かすような場面を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、今年度は外出の機会がなかった。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年ではご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、ご利用者の要望に合わせて買い物や外食と一緒に出かけたりもしています。また、季節に合わせたお花見やはず見学、菊祭りなどの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭の自己管理は行っていない。ただし、本人様が金銭を所持される事で安心される場合は、家族様の了解を得て、現金を所持されている場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には手紙を書いていただいたり、電話を取り継ぐ支援をしている。携帯電話を所持され、使用している利用者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースである食堂やリビング、廊下等に季節を感じていただけるような装飾を行ったり、行事の写真を掲示し、利用者様同士の話題作りとなっている。	リビングはご利用者がテレビを見ながらゆったりと過ごせる環境になっており、ご利用者が活けるお花を飾ったり、雛人形を飾るなど飾られている装飾品も季節に合わせてあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや談話コーナーにソファを設置し、一人でもくつろげるようなスペースを提供している。安全面にも配慮した環境整備を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具を持参していただいたり、使いやすい家具を設置することで、安全で安心出来るような居室配置を行っている。好みの写真や家族様の写真を設置することで居心地良い空間になるよう心がけている。	居室には寝具やタンス、お仏壇など、ご利用者が使い慣れた物を自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況に合わせて個別で目印になるような物を掲示し、安心して過ごせるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない